

# 市民のページ

## 文芸たかはし

(敬称略)

### 短歌

旅のはて備北の旅籠で 一泊し寂しさ募る 牧水のうた  
 紅葉もゆる蒜山の彼方大山は霞たなびきて雄姿望めず  
 心ろ一つ皆んなの力で民泊す応援したが終れば疲れ  
 泊りたいまだ帰らぬよとひい孫は中庭近く嬉々と遊びぬ  
 さわやかな秋の日ざしのゲートボールよつらしよ足腰の痛さ忘れて  
 今の世は理解苦しむ事多く物足り過ぎて平和ばかりかも  
 初春と言ふ文字の温もり待つ吾に陽差し浴びつ福寿草芽吹く  
 秋空に色とりどりのコスモスよここにこ老にはげましおれり

梅野 八郎 (松山)  
 小野はる恵 (原田南町)  
 下向 近雄 (備中町平川)  
 田中 弘子 (川上町領家)  
 戸田奈美子 (川上町地頭)  
 原田 由き (高倉町飯部)  
 平 初音 (高倉町田井)  
 森崎 道子 (宇治町宇治)

俳句

過疎の里人もまばらに秋祭 長原 茂子 (備中町西油野)  
 ゆず風呂にひたりて無想のときつづく 平松 幾代 (長寿園内)  
 秋風中時めき友とゲートボール 結城 成子 (宇治町宇治)

川柳

座に就いて米寿の母の至福顔 中島 清市 (成羽町吹屋出身)  
 禁煙に孫のひと言ぐつと効き 長谷川 祐子 (成羽町下原)  
 損得の無しで付き合う友情きずな 藤井タツ子 (備中町西山)  
 ものわすれわすれたことを又わすれ 吉岡 麻江 (鶴寿荘内)

## 地名とふるし

### 十四、布賀

備中町「布賀」は隆起準平原といわれる吉備高原を若い成羽川がV字形に深く削り込んだ峡谷地形となつていて、成羽川の右岸にあります。

川に沿った黒鳥の市場集落を過ぎて左に急しゅんな九十九折の坂道を登つたところ、昔の人はこの坂道を「胸突き八丁」と表現していました。登りつめると「野呂」といわれた海拔四〇〇〜五〇〇mの高原に小起伏の地形が広がり、大原、東、中郷、北迫、郷、向などの集落があります。耕地のほとんどが畑作で、くぼに少し水田が見られるぐらいです。

「布賀」は以前(明治二二年〜昭和三二年)川上郡の長屋・布瀬の二村と志藤・用瀬の地区を合併してできた「富家村」の大字の一つで、「上布賀」の呼び方で親しまれていました。

「布賀」の地名は中世戦国時代から見えていて、中郷に鎮座する「布賀八幡宮建立の棟札」(岡山県古文書集)に永正二年(一五一四)九月二二日として「備中国河上郡六斗之内布賀村源朝臣忠親并願主源経貞」と記録されていて、当時この地域一帯は六斗郷だったことが分かるのです。

近江から平川の本郷に領家職(?)として移って来た平川氏一族が分かれ布賀平川氏として布賀の菖蒲城に依つたといわれ、布賀八幡宮を創立したらしく、棟札に書かれている源忠親、経貞は親子だろうといわれています。後になって、元禄二年(一六九二)亀石八幡宮と改称されています(「布賀八幡宮由来記」II「前掲書」)。

近世の「布賀村」は慶長五年(一六〇〇)幕府領、元和三年(一六一七)松山藩領、同四年成羽藩領、そして寛永一六年(一六三九)再び松山藩領となつていきます。その後寛永一八年幕府領、元禄七年(一六九四)から旗本水谷氏領へと移りかかっています。この頃の「布賀村」

は「正保郷帳」(正保二・三年頃II一六四五・四六)によると「四八〇石 布賀村、幕府領」となつていて枝村に黒鳥村などをあげています。

旗本水谷氏は水谷勝美(松山藩主)の弟勝時が川上郡のうちで三千石を賜り布賀村の郷に元禄六年(一六九三)に陣屋(知行所)を置き翌七年から領主として幕末に至つていきます。六代勝得の時、弘化〜嘉永年間(一八四四〜五三)に高瀬舟による河川交通の便を考えて野呂から黒鳥の河岸場へと陣屋を移しています。

天保五年(一八三四)の「天保郷帳」には村高九二四石余り、水谷主水知行の頃には(旧高田領取調帳)八五五石余りとなつていっています。

「布賀」には古い歴史を物語る文化財が沢山残っています。中郷にこんもりとした鎮守の森が見える場所は亀石八幡宮が鎮座していて、多くの棟札が残っています。裏山の峠付近には「塔様」と呼ばれる応永二年(一三九五)の方柱碑があります。

また、八幡宮の下側には、永享一〇年(一四三三)銘の石造延命地藏菩薩立像のある平川氏の菩提寺曹洞宗長建寺などがあります。堂の峠の石造方柱碑(供養塔)は至徳四年(一二八七)銘が刻まれ県の重文となっています。

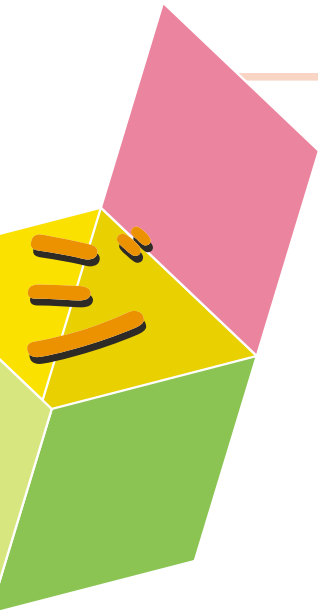
「布賀」という地名の由来ははっきりしませんが中世から開けていた村だったことは確かです。「布賀」という地名は「奥行き」の深いところという意味に用いられることが多いのですが、もしかすると「財産が豊か」と「む」という「富家」の意から生まれ後になつて「布賀」と文字が変わった地名かも知れません。難しい地名の一つなのです。

(文・松前俊洋さん)



「鎮守の森と郷・中郷方面を望む」

# GALLERY ギャラリー



「花瓶と花台」木工細工(槐の木)  
日向 正さん(成羽町中野)



「大平山からの雲海(大山を望む)」写真  
綱嶋廣明さん(巨瀬町)



「壁掛け」竹細工  
前原隆二さん(備中町布賀)



「バラの花」きめこみパッチワーク  
岡本あさ乃さん(有漢町有漢)

## ミニ★トピックス

### 巨大ユズ?! 小林忠義さん(津川町今津)

写真のユズはミカン科のシシユズ(獅子柚)。別名:鬼柚子。シシユズは直径が約20センチ、重さは0.5~1キ。普通のユズに比べ香りは弱い。庭に植えると「代々(橙)家が栄える」と言われる、縁起の良い柑橘果樹。

小林さんは「1本の木にこのシシユズが30~50個できました。そのときの迫力はすごかったですよ」と話します。



「国体の思い出」  
藤森スミコさん(巨瀬町)

国体ののぼり旗をリサイクルして法被をつくってみました。



## 作品の募集について

【文芸】短歌、俳句、川柳など

【作品】絵画、工芸品、町の風景写真など

●自作の未発表作品で、一人一作品とします。

●ギャラリーの作品については、その写真をお送りください。

(撮影が困難な場合は、ご連絡ください)

●住所・氏名・電話番号・作品の場合はタイトルを明記のうえ、お送りください。

※締め切り掲載号の前日の末日(必着)

【送り先】〒716-8501(住所不要)

高梁市役所企画課公聴広報係

※応募多数の場合は、紙面に掲載できないこともありますので、あらかじめご了承ください。

※提供いただいた写真等は返却できません。

■問い合わせ 企画課公聴広報係 ☎0210

Eメール: kikaku@city.takahashi.okayama.jp